



目次

アフリカ豚コレラをご存知ですか？ ～侵入防止対策の徹底をお願いします～1
万が一に備えて！ 一戸町職員が防疫対応研修2
高い衛生レベルで生産性の向上に取り組む3農場を認証！2
牛白血病感染拡大をシャットアウト ～吸血昆虫対策のポイントはここだ！～3
トピックス（大事な大事な獣医の芽～千葉所長が出前授業～、薬剤耐性対策関連動画の紹介）4

アフリカ豚コレラをご存知ですか？ ～ 侵入防止対策の徹底をお願いします～



アフリカ豚コレラは、豚コレラ同様に経済的被害を与える恐れのある家畜の国際重要伝染病であり、我が国では家畜伝染病に指定されています。どちらも伝染力が強く致死性の高い疾患であり、「豚コレラ」という名称は共通していますが、原因となるウイルスや感染経路が異なります。アフリカ豚コレラは、これまで国内やアジアでの発生はないものの、2006年末にアフリカから欧州への侵入が確認されて以降、発生地域が徐々に拡大しています。2017年に、ロシアとモンゴルとの国境付近で発生が確認され、2018年4月にはハンガリー、6月にはルーマニアで初めて発生が確認されるなど、じわじわと西へ拡大しており、本病が日本へ侵入するリスクが高まっています。

アフリカ豚コレラの症状



血便 →



発熱・元気消失
耳翼の紫斑

写真出典：USDA APHIS Plum Island Animal Disease Center

欧州各地への伝播は、国際線船舶の残飯を養豚場で使用したことが原因です。今後も益々、海外からの渡航者が増えることから、発生国への渡航自粛だけでなく豚飼養農場での飼養衛生管理基準の遵守について、再徹底をお願いします。



万が一に備えて！ 一戸町職員が防疫対応職員研修

去る7月10日、一戸町では、早くも町職員を対象とした高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）防疫に関する研修会を開催しました。

田中町長、臼井副町長をはじめ、各課の職員約40名を対象に、二戸地方支部の運営主体となる二戸地域振興センター総務課も加わって、通報から発生までの流れ、発生時における初動対応、発生から終息までの防疫作業内容を再確認し、同町の養鶏場の特徴から見える課題等について理解を深め、立入検査時の情報提供のタイミングや消毒ポイントの対象車両等について、認識を共有しました。

一戸町には、27戸の養鶏場がありますが、町を縦断し交通量が大変激しい国道4号線沿いに養鶏場が密集しており、他の市町村と比べて、発生時の防疫措置の難しさが予想されます。

当所では、HPAIウイルスを侵入防止を第一に養鶏場の巡回指導を進めていますが、万が一に備え、地域の事情をよく知っている市町村との協力・連携を深め、危機管理の徹底に努めてまいります。



高い衛生レベルで 生産性の向上に取り組む3農場を認証！



国内屈指の養鶏地帯を管轄する岩手県北家畜衛生協議会では、昨年度「県北地域鶏家畜飼養・生産性向上応援事業」を創設し、高い衛生レベルを維持しつつ、自己目標を掲げて生産性向上に取り組む農場を応援しています。

昨年度は3戸の養鶏場が参加し1農場が目標達成農場、2農場が取組農場として認証されました。

認証式では、遠藤譲一会長（久慈市長）から激励の言葉とともに認証票及び副賞が授与され、目標達成農場の松倉和幸さん（プライフーズ株式会社系列・松倉和幸農場）から、「生産性の安定と向上を目指し、日々の衛生管理を行っていききたい。」とコメントを頂きました。

今年度は参加農場数をより増やし、生産者の日頃の努力を引き続き応援・アピールすることで、高病原性鳥インフルエンザの侵入防止を徹底しつつ当地域の養鶏産産業を盛りあげていきたいと思ひます。また、GAP（農業生産工程管理）の導入に繋がるきっかけとなることを期待しています。



牛白血病感染拡大をシャットアウト ～吸血昆虫対策のポイントはここだ！～



1 牛の配置を見直そう！

感染牛と非感染牛を別々の牛舎で飼育することが理想的ですが、現実的には困難です。感染牛と非感染牛を区分編成し、分離して飼育するだけで感染防止に有効です。



両群の間にスペースを設け、防虫ネットで分離した牛舎（管内和牛繁殖農場）。コンパネ等での区分も有効です。



2 吸血昆虫の侵入を防止しよう！



出入口、窓などに防虫ネットを設置した牛舎（管内和牛繁殖農場、酪農場）。アブには網目が1cm以下、サシバエには網目が2mm以下のネットが、それぞれ侵入防止に効果的です。

〔牛白血病とは〕

主に牛白血病ウイルスの感染が原因でおこる「牛の血液のガン」です。

感染しても、発症に至るのはわずか数%ですが、治療法・予防ワクチンがないことから、ウイルスの感染を防ぐことが唯一の対策です。

夏季は、吸血昆虫（主にアブ・サシバエ）による感染拡大の危険性が高まります。対策を実施し牛白血病の感染を防止しましょう。

管内では昨年20頭の発生がありました。


感染しているかどうかの検査を希望する方は、家畜保健衛生所まで相談ください。

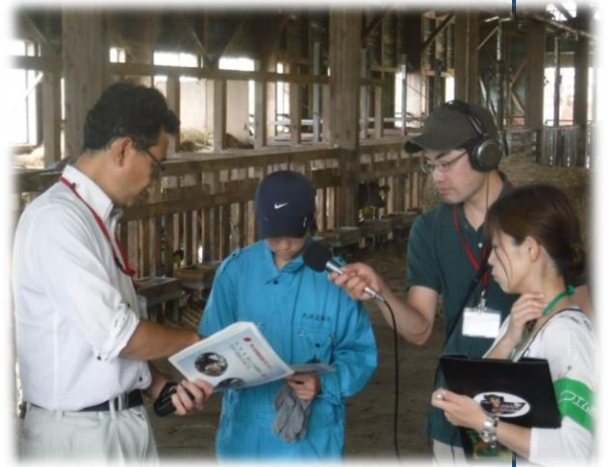
大事な大事な獣医の芽 ～千葉所長が出前授業～

7月5日、獣医師志望の女子中学生Nさんに、「獣医師を目指そう」と題した出前授業を行い、夢を叶えられるようエールを送りました。

Nさんは、7月3日から5日まで管内公営牧野での職場体験研修中でしたが、獣医師志望であったことから、急遽出前授業をする運びとなりました。授業は、獣医師の役割、県北地域は畜産業が盛んなこと、家畜に関わる獣医師が不足していること、獣医師となるためのプロセス及び県の奨学金制度と多岐にわたりました。

Nさんは『家では、犬と鶏（うずら）を飼っていて動物が大好き。獣医師について、いろいろ教えてもらい参考になった。将来はペットも牛も診られる獣医師さんになりたい。』と、しっかりと目標を見据え、目を輝かせていました。県はこれからもいろいろな形で、地域の獣医師誕生を支援していきます。

Nさん、獣医師になる夢に向かって頑張ってください!! 



出前授業の様子をFMラジオ局が取材

薬剤耐性対策関連動画の紹介

薬剤耐性対策を推進するためには、生産現場で抗菌剤を慎重に使用することが重要です。

農林水産省では、慎重使用を推進するために、獣医師や生産者向け、次の3種類の動画を作成しHPで公表しました。（下記アドレス参照）

http://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/amr_movie.html

具体的な検査手法なども映像で判りやすく紹介されておりますので、業務の参考に幅広く活用してください。

- | | |
|---------------------------------|-------|
| ①薬剤耐性（AMR）対策～獣医師、生産者が知っておくべきこと～ | 生産者向け |
| ②薬剤耐性対策 抗菌剤は慎重使用を！ | 獣医師向け |
| ③現場で行う検査（薬剤感受性試験） | 獣医師向け |

（関連動画のQRコードはこちら ↓↓↓）



①薬剤耐性(AMR)対策
～生産者・獣医師が
知っておくべきこと～



②薬剤耐性対策
抗菌剤は慎重使用を！



③現場で行う検査
（薬剤感受性試験）